

「貫志」～最後の最後まで～

宇佐高 進路だより

No. 3 平成30年 7月2日 発行元：宇佐高等学校進路指導班



☆ 1学期期末考査が終わりました。4月から今までの生活は充実していたでしょうか？ここで、自分自身のことについて振り返ってみてください。特に、学習面に関してはどうですか？自分で自分のことを褒めることができるでしょうか。もし、今、少し後悔している人は、今から1学期が終わるまでの学習を充実したものにしてください。それができる人は夏休みも充実した学習ができるはずです。

☆ 今回は「何のために勉強するのか」について一緒に考えてみたいと思います。まず、次の一節を読んでみてください。(丹羽健夫著「眠られぬ受験生のために」中央公論社)

浪人生として予備校にやってくるのは、何も高校出たての一浪生、二浪生ばかりとは限らない。小野道風よろしく初志を貫徹するため、A大学医学部目指して五浪中というような人もある。そしてもっと年齢のいった二十代後半とか三十代の人も少数ではあるが、一旦大学を卒業して社会に出たけれど、実務の中で「俺が(私が)本当にやりたかったのは××だったのだ」と人生的発見をして改めて別の道路をやり直すために予備校に通ってくる人たらだ。数年前のこと。四月の開講日に、予備校の教室に一人の年輩の男性が現れた。チューター(クラス担任)が、「保護者の方ですか」と聞くとその男性はニヤッと笑って、「いえ、れっきとした塾生です。かなり年がいつているので、ご迷惑をおかけするかもしれませんがよろしくお願いします」と息子ぐらいの年配のチューターに丁寧に頭を下げた。翌日からの授業にそのお年寄り、授業開始三十分前ぐらいに、紫色の風呂敷にテキストやノートを包んで教室に現れ、最前列に座るのが常となった。講師たちの間でも「オイ、七〇一教室の一番前にへんなオッサンがおるな」と噂になった。ひと月ほどしてチューター面談のときにこのお年寄りの状況が少し明らかになった。年齢は六十一歳、前の年に会社を定年になったのであった。「私が旧制中学を卒業したのは、太平洋戦争で日本が敗れて十年もたっていないときでした。私らの一級下から新制中学、新制高校になったのです。当時は日本中が貧乏で、ましてや私は父親が戦死していました。母親が勤めに出て何とか中学までは行けましたけど、とうてい旧制の高校、大学には行けませんでした。割合勉強もできる方だったんですが、母親が苦勞しているのを見て少しでも早く勤めに出て安心させたかったんです。もちろん私はできれば進学したかったんですが——。就職するときに決心したのです。勤めに出て少しでもお金がたまったら大学はそれからでも遅くないと。しかし、一旦就職すると仕事に追われて時間的にそれどころではなく、そのうち結婚して子どもができて、そうなるも経済的に大変で大学どころではなくなりました。昨年やっと仕事で定年になりまして、子ども達もそれぞれに道を歩みはじめたので少しばかりのお金も残りましたので、こ

うしてやっと本式に大学へ向けての勉強にとりかかることができましたのです。ええ、女房もそりゃ喜んでくれましたよ……」年のせいで頭が錆びついたり、などこぼしながらもお年寄りは一日も欠かさずきちんと予習として授業に出席した。講師達も「あのお年寄りを絶対ものにしようや」と力を貸した。塾生達の間でも「おとうさん」といって慕われ、体育大会でも若いものに混じって二人三脚やムカデ競争に出場した。成績の方は夏と過ぎる頃から急伸をはじめた。十一月の受験校決定のときチューターは、第一志望の、地元私立大で一番の難関のB大学文学部史学科はまず間違いなしと太鼓判を押した。B大学の合格発表のあった二月の半ば、チューターは真っ先にお年寄りの名前を探した。しかしお年寄りの名前はなかった。チューターは焦って家に電話した。「いやあ、実は受けませんでしてな。どこの大学も受けませんでしてな。考えが変わったんです。もし私が大学に受かったら、一緒に勉強しておった若い人たちの席を、一つ奪うことになる気がしてきました。こちらは人生の残りや大学に行こうとしとるんだが、若い人たちにとっては、これからの人生のために大学に行くんですからな。いやあ、一年間楽しく勉強させていただいて十分満足ですわ。合格祝賀会には行って皆の顔を見ます。ええ、もちろん女房もそれがいいといってくれましたしな」いま、この国は平和で金持ちで、大学に行こうとしてそこそこ頑張って勉強すれば、ほとんどの人が希望をかなえることができる。こんなことはこの国の歴史の中でかつてなかったと思う。勉強ができて大学に行きたくても、いろいろな事情で行けない人が大量にいたのが、つい三十年前の状況であった。国外をみてもおそらくこんな国はない。勉強は人によっては厳しく苦しいものである。しかし、一方で内外の状況や過去を思うとき、今持っているすべての時間やエネルギーを勉強に注ぎ込める状況に感謝しないわけにはいかない。

どうでしたか？この一節を読んでどのような感想を持ちましたか？

「何のために勉強するのか」について、その答えのようなものは幾つか準備することはできますが、正解はないのではないのでしょうか。もしかしたら生徒達は「受験があるため」と答えるかもしれませんが。この答えも間違いではないでしょう。でも本当にそれだけのために勉強しているのでしょうか？

貧しい国の子ども達が真剣な眼差しで勉強している姿をTVなどで見たことがある人も多いでしょう。あの子ども達に「何のために勉強しているのですか」と訪ねたら何と答えるのでしょうか。恐らく、不思議そうな顔で「勉強がしたいから」と答えるのではないのでしょうか。

人間は元々、知的欲求が備わっている動物だといわれています。そうです！我々は人間として自分自身を高めていきたいはずなのです。このことを前提として一つだけ考えてもらいたいことがあります。上の一節にもありましたが、世の中には様々な事情によって、勉強したくてもできない人が沢山います。今、自分が置かれている環境が非常に恵まれていることを自覚しましょう。ほんの少しだけでよいから、感謝の気持ちを持って欲しいのです。その気持ちを持って勉強している人とそうでない人とでは、その後人間としての成長に差が生まれる気がします。我々人間は「想像力」を持っています。その想像力を駆使しながら、感謝の気持ちを持って勉強を継続していきましょう！

英語
4技能検定

国立大入試、英語4技能検定が必須に!?

※本冊子では、発刊当時の名称を採用し、「一般選抜」を一般入試、「学校推薦型選抜」を推薦入試、「総合型選抜」をAO入試と記載しています。

への対応

変わる入試

「大学入学共通テスト」で、「英語4技能検定」が利用されると発表されています。これはどういうことでしょうか？
今後の対応について、さっそくポイントを紹介していきましょう。

- ①共通テスト(英語)+英語4技能検定
両方受検が必要(国立大一般入試)
- ②スピーキング力の育成が課題

① 大学入学共通テスト(英語)と英語4技能検定

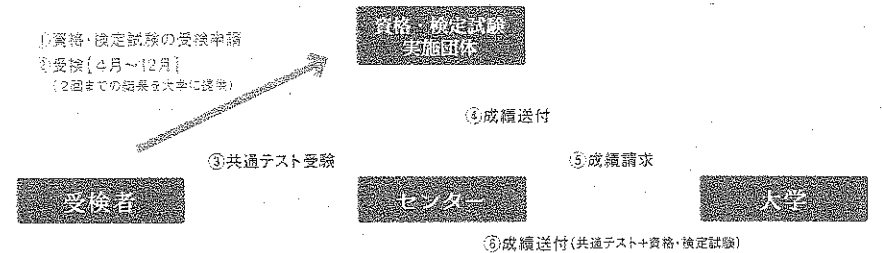
英語	共通テスト	英語4技能検定
パターン①	-	○
パターン②	○	○
パターン③	○	-

- ◎共通テスト(英語)と英語4技能検定が併存する(2023年度まで)
- ◎利用方法は3パターンある
両方の試験をどう利用するかは各大学の判断
→国立大はパターン②「共通テスト、英語4技能検定の両方受検」が必要

※国立大学協会、2017.11.10方針

	共通テスト	英語4技能検定
測定できる技能	聞く、読む	聞く、読む、書く、話す
試験方式	ペーパーテスト	ペーパーテストまたはCBT*など
受検回数	年1回	高3の4~12月の間で2回まで受検可
大学に提供する成績表示	スコア(点数)表示	試験結果及び、CEFRの段階別成績表示

*CBTとは? Computer-Based Testing. コンピューターを利用して行う試験のこと



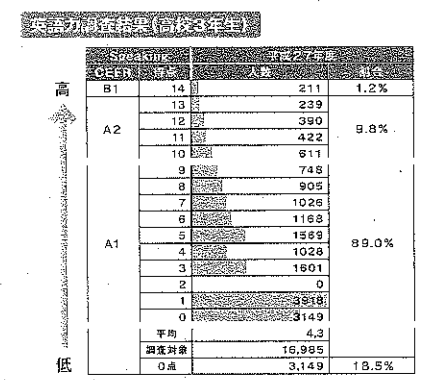
◎どの資格・検定試験が利用されるのか
高等学校学習指導要領との整合性、1回の試験での英語4技能評価の可否、試験とCEFRとの対応関係等の確認を終え、2018(平成30)年3月末を目途に公表される予定。

※大学入試センター/平成29年11月1日公表「大学入試英語成績提供システム」及び参加要件の公表について」

② スピーキング力の育成が課題

高	低	自立した言語使用者	基礎段階の言語使用者
		仕事、学校、娯楽など、身近な話題であれば、会話ができる。筋の通った文章を書くことができる	自分や家族に関すること、言い物など、簡単に日常的な範囲なら、単純で直接的な情報交換に応じられる
			よく使われる日常的な表現や基本的な言い回しは理解でき、簡単なやり取りをすることができる

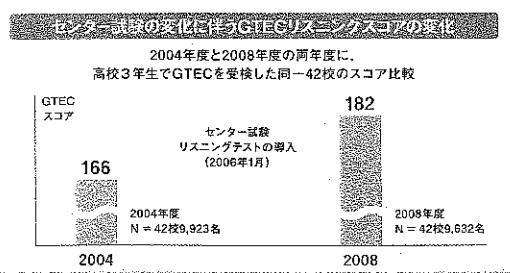
CEFR(セファール)とは...
CEFRとは、外国語のコミュニケーション能力を表す指標で、欧米を中心に広く使われている国際標準規格です。大学入学共通テストでも指標として用いられます。ちなみに、現行入試で英語検定試験を利用している大学では、合否/加点等のラインとしてB1相当が44.9%と最も多く、次いでA2相当が35.3%となっています。



やはり課題はスピーキング力育成
高校3年生を対象に行った英語力調査の結果、スピーキングにおいてA2以上の成績を収めた生徒は、11.0%。つまり、約9割の生徒は最低の「A1」となっており、課題があることが明らかになっています。

CEFRのレベルの「A1」のついた割合は、リーディング88%、リスニング74%、ライティング82%、スピーキング35%となっている

センター試験の変化を振り返る~リスニングテスト導入~



2006年1月のセンター試験の英語にリスニングテストが導入されて以降、各校でその指導の試行錯誤が繰り返されてきた。GTECのスコアをみても、それが日本の高校生の英語力向上につながっていることは明らか。中学・高校の教育力の高さを証明している。今回の入試改革では、英語学習の本質的な目標「英語を使って●●できる」の実現にむけて、さらなる一歩を踏み出すことになる。